臭気判定士会　2022 年度　総会及び第1回意見交換会開催報告

○　2022 年 6 月 11 日（土）オンライン（Zoom）にて開催された。総会参加者数 82 名（出席 24 名、委任状 58 名）。総会後、引き続き意見交換会が開催された。総会は、祐川会長の挨拶から始まり、前期（2021 年度）活動報告、決算報告、今期（2022 年度）事業計画、予算について事務局から報告され審議の結果、すべて承認された。前期活動・決算報告では、臭気判定士試験の回答解説集の売り上げが例年と同程度であったが、受験講習会はコロナ禍を考慮し、ごく小人数で対面式での開催となり、収益効率が悪く、開催回数が多い割には収益面での貢献は期待したほどは得られなかったとの報告があった。2021 年度内収支は約 9 万円の赤字となったが比較的多額の繰越金があったので、2022 年度への繰越金は前年並みの金額が確保できた。意見交換会は、二回開催された。テーマは、会員の関心が高い次のテーマで開催された。第一回「嗅覚検査に関する情報交換」、第二回「新資格であるにおい・かおり環境アドバイザーの活動報告」。今期活動計画では、今期もコロナ禍に留意しながら、ほぼ前期同様の計画ですすめることとした。臭気判定士試験受験講座は、オンラインを活用して開催する。以上、審議資料など詳細は当会ホームページに掲載すると同時に会員の皆様には議事録と一緒にお送りします。

○　意見交換会は、テーマ「臭気判定士試験問題から見るにおい分野における最新情報」とした。臭気判定技士から臭気判定士へ移行して 22 年が経過した。当資格試験の問題の傾向は時代を反映しつつ変遷してきた。回答の解説書作成に当初から関わってきた事務局から、所感が述べられると同時に、特に留意すべき事項が紹介された。平成 13 年度試験施行以来、筆記試験の内容も高度になると同時に、時宜に合った問題が出題されてきた。直近 5 年程度以内の合格者・受験者は最新情報に触れているといえるが、それ以前の合格者は、学会誌などで常に情報入手に勤めている人は別として、どうしても疎くなりがちである。特に臭気判定技士時代に資格を得た人は、そのような傾向になりがちである。資格者の方々には、最新情報を知っていてほしいと思っている。試験に受かってしまえばそれで良いというのではなく、常に最新情報に関心をもっていていただきたいと思い、このようなテーマとした。主として嗅覚に関する情報、法制度の変更等です。加えて、おそらく不得意であったと思われる統計学の基礎事項など、知っていてほしい事項を選定し解説された。

まず、三点比較式臭袋法が「嗅覚を用いる臭気判定試験の方法」として告示された時点から臭気判定技士の誕生、嗅覚測定法の施行、臭気判定士の資格規定、臭気判定士制度の施行についての経過が解説された。以下、各科目における最新情報が紹介された。嗅覚概論では、におい物質結合タンパク質の存在、嗅上皮の面積、嗅細胞の数、嗅細胞の再生期間、嗅覚受容体の種類数、フェヒナーの法則の正確な理解、嗅力の性差、順応と慣れについて正確な理解、同定力と年齢、嗅覚野・偏桃体・海馬の存在及びその機能、「１嗅細胞−１種類受容体ルール」、嗅覚障害に関する記述内容が充実。悪臭防止法では、都道府県知事・市長の役割、事故時の措置、環境試料測定における計算式改善・簡素化、2 号規制値算出における早見表の活用、アルデヒド類分析法改正・追加、有機化合物分析にガスクロマトグラフ質量分析法追加。以上であった。